

# 安倍暴走に批判自民元幹部から次つぎ

右翼政治みたい  
痛みわからぬ

「保守政治というより、右翼政治みたいな気がする」（河野洋平元自民党総裁）、「先人が長い時間をかけて積み重ねてきたことへの謙虚さを、もう少し持つてほしい」（古賀誠元自民党幹事長）。自民党中枢にいた元幹部が、民意に背く安倍政権の暴走政治に相次ぎ批判の声を上げています。

△ △ △  
安倍晋三首相が今夏発表する「戦後70年の新談話」。これまでに「河野談話」（1993年）、「村山談話」（95年）にあった「植民地支配と侵略」「慰安所における強制」への反省など、その核心部分をあいまいにした「新談話」にしようとしています。

河野氏は名古屋市内での講演（2月24日）で、「日本の歴史認識が10年刻みに変わることはありえない」、「歴代の自民党のリーダーが抑制的にやってきたいろいろな問題について、これでいっせいに抑制を解き放って走りだすように見える」と述べ、安倍政権を批判しました。

沖縄県民と翁長雄志知事の反対を無視して名護市辺野古への米軍新基地建設をすすめる安倍

## 安倍政権に対する自民党元幹部の発言



河野洋平元自民党総裁

「保守政治というより右翼政治みたいな気がする」（2月24日、名古屋市内での講演）



野中広務元自民党幹事長

「沖縄県民の痛みがわからない政治。強く憤慨している」（2月15日放送の民放番組）



山崎拓元自民党副総裁

「安倍首相は自分がしていることの恐ろしさをわかっていない」（『週刊朝日』3月6日号）



古賀誠元自民党幹事長

「（自民党には）根っここの議論が何一つない。非常に憂慮すべき状況」（同上）

首相。野中広務元自民党幹事長はTBS系番組（2月15日放送）で、「翁長知事、沖縄県民に対する態度は絶対に許せない」と抗議。「本当に悔しい。自民党がこんなにも沖縄を差別するのか、本当に残念に思っている」と憤りました。

山崎拓元自民党副総裁と古賀氏は週刊誌『週刊朝日』3月6日号のインタビューで、それぞれ安倍首相を批判しました。

山崎氏は集団的自衛権行使について「戦後70年の外交安保政策の大転換を閣議決定でなし崩しにやるべきではない」と指摘。さらに、「戦後以来の大改革」などと言って、タブーを破った快感に酔いしれて、個人の名誉心でやっている」と痛烈に批判しています。

古賀氏は自民党内の状況について「集団的自衛権の行使をなぜ今、問う必要があるのかなど、根っここの議論が何一つない。非常に憂慮すべき状況だ」と語っています。

自民党元幹部の一連の発言は、安倍政権が戦後の保守政治が掲げてきた諸原則すら否定する、特異な立場に変質していることを示しています。

2015年3月1日(日)

安倍内閣 疑惑まみれ  
望月環境相・上川法相も  
「違法」献金  
補助金交付企業から

暴走政治を続ける安倍政権のもとで閣僚の「政治とカネ」問題が相次いでいます。23日の西川公也前農水相辞任に続き、27日には、望月義夫環境相と上川陽子法相がそれぞれ代表を務める自民党

支部が、国の補助金を受けた企業から政治献金を受けていたことが明らかにになりました。辞任・疑惑閣僚続出の金権腐敗

にまみれたボロボロ政権です。  
望月氏の政党支部は、2013年、同年に環境省と国交省から補助金が交付されていた総合物流商社「鈴与」（静岡市）から、140万円の献金を受領。上川氏の政党支部も13年に「鈴与」から72万円の献金を受け取っていました。

政治資金規正法は、国の補助金を受けた企業による、補助金交付決定から1年以内の政治献金を禁じています。

この日の記者会見で菅義偉官房長官は、望月、上川両閣僚から補助金交付企業とは知らなかったとの報告を受けたとし、「（政治資金規正法は）知って受け取ってはならないことであり、全く問題はない」とかばいました。

辞任した西川前農水相も居直りで批判をあびています。国から補助金を受け取っていた木材加工会社や、環太平洋連携協定（TPP）と関係の深い砂糖業界団体の運営する企業から西川氏が献金を受け取っていた問題ですが、西川氏は、違法性はない、「私がいくら説明しても分からない人はわからない」（23日）と逃げています。

27日の衆院予算委員会では、望月、上川両氏と、下村博文文部科学相の3閣僚について追及を受ける異常事態に。下村氏については、複数の支援組織「博友会」が政治団体の届け出をせず、同会議員が会費として支払ったはずの金を下村氏が代表を務める政党支部に献金していた問題が取り上げられました。

安倍政権下での「政治とカネ」をめぐる問題は2006年の第1次政権から相次いでいます。14年9月の内閣改造後には、わずか1カ月半で小渕優子経済産業相、松島みどり法相が辞任。その後江渡聡徳防衛相が交代しました。1次、2次、3次で8閣僚も辞任・交代。政治のモラルが完全にまひしています。

2015年2月28日(土)



## 粗大ごみ・不燃ごみ有料化

三月議会が二日（月）から始まりました。平成二七年度予算を審議する大切な議会です。そこに粗大ごみと不燃ごみを有料化する提案が含まれていました。

不燃物用指定ゴミ袋（三〇リットル用三〇円、四五リットル用四五円）が作られます。不燃物収集日に収集場所に出します。

粗大ごみは、これまでと変わって、リクエスト方式になります。まず、環境管理課に電話し取りに来るよう依頼します。粗大ごみには三〇〇円シールを買ってきて粗大ごみに貼付し、家の前に置いておく。詳細はまだ決まっていないそうです。

一般ごみ処理は自治体の固有事務です。町が責任を持つて処理するものです。これまで町の費用で処理をしてきました。

「お金を払わなかったら収集しないぞ！」と脅かしてごみ量を減らす作戦です。本当にごみ量は減るのでしょうか？町が集めるごみが減るだけで、不法投棄が気になります。

ごみ中継地に大金がかったので、新たな財源を確保したいだけでは？と疑いたくなります。ごみ減量の基本は、リデュース（必要以上に消費しない）リユース（使いまわす）リサイクル（原料に加工して利用する）の徹底です。

田原本議会  
議員  
吉田容工



## 住民自治基本条例の説明会

今、三宅町議会で論議されている「住民自治基本条例」の第2回説明会が中央公民館で2月28日午後1時半から行われ、参加してきました。

「住民自治基本条例」は、昨年の6月議会で渡辺議員から提起されて、特別委員会を作り、11回の委員会、8団体との意見交換を行ってきたとのこと。

住民には渡辺議員の後援会二一ス第8号・2015・1・10発行で「議案案が発表された」という見出しの「条例案の骨子」が新聞折り込み、全戸配布で知らされました。

議会でも、議会の前の運営員会で議題になっていなかったものが突然

「諸般の報告」という事で「特別委員会の委員長報告」が行われ、執行側から議長にクレームがつくこともありました。

当日の説明会では一通り経過説明があった後、質疑で「前回と今回の説明が違う」「協議会のメンバーはどうして決めるのか」「外国人の投票は」「誰が発案したのか」「すでに町、議会で行われているのでは」「2元組織になるのでは」「法的根拠は」「最初に自治労が提案したのでは」「議会は何のためにあるのか」「時期尚早ではないか」など意見が出され、「3月議会では採決」で報告がありました。

三宅町  
池田年夫



## 祝！小学校落成

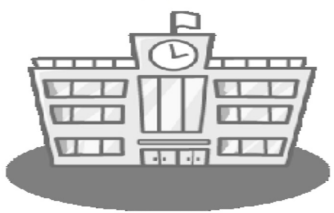
暦が一つ進んで三月に入りました。あいにく冷たい雨模様で始まりました。桜の開花予報も出て来ているし、春本番まで、後少しですね。

川西町の三月は、新築された川西小学校の落成式からスタートです。私は前日からの風邪による発熱で欠席してしまいました。校門前でのテレビの取材も入って盛大に行われた事でしょう。二一年四月の結崎・唐院の両小学校の統合により川西小学校としての歩が始まり、続いて新校舎の建設に着手し今年度を持つて、二期に渡る工事も終了し落成の運びとなりました。私が時々呼んで頂く小学校の行事などで歌われる校歌に、希望の世

紀・平和の世紀・子どもの世紀という歌詞が出て来るんですが、メロディーとも相まって、そのフレーズを聞いたたびに体中に鳥肌が立って、「正にその通りやなあ。次代の担い手はこの子らやから、そのためにも今を生きる大人としてしっかりせんとなあ」といつも肝に銘じさせられます。

最近、子どもを取り巻く痛ましい事件がたびたび起こっています。これはただ事では有りあません。現代社会の縮図としての現われに他なりません。警鐘としてしっかりと受け止めねばなりません。

川西町議会  
議員  
芝和也



## 「命の笛」

3月議会が2日から12日迄開かれ、3日は一般質問の日です。今日は私の質問の一部を紹介します。

近年「大地震は、遠くない将来に必ず来る」と言われ、世の中の人々も地震に対する関心度は高まって来ています。本町でも南海トラフ地震に対する防災計画は、立派なものが作られています。尚、奈良盆地東縁断層帯の被害想定では、本町では最大震度6強、死者は二五六、全半壊棟数九五四五、焼失棟数八三二など恐ろしい数字です。

あの阪神・淡路大震災での死者は、地震直後のほとんどは倒壊した住宅の下敷きになっ

たのが原因と言われています。倒壊してガレキに埋もれたりした時、救助隊に自分の居場所を知らせるために笛は有効です。

筒状になった笛の中に自分の名前、住所、電話番号、血液型などを書いた紙を入れておける「命の笛」（百円程度）があり、これを各家庭に一個づつ町から配布してはどうか、また家族の分を希望される方は買って頂くなどの方法を含めて検討して頂けるかどうかを質問します。

一人でも多くの命を救うのには、安いものとは思いませんか？

田原本議会  
議員  
森良子

